

動薬協会発 44 号  
令和 4 年 6 月 10 日

公益社団法人日本動物用医薬品協会  
会員各位

公益社団法人日本動物用医薬品協会  
理事長 池田 一樹  
(公印省略)

新たな型と思われる  $\alpha$  溶血性レンサ球菌に関する令和 3 年度調査の結果報告及び令和 4 年度調査依頼について

平素より協会事業にご理解とご支援を賜り、御礼申し上げます。

さて、標記のことについて、下記及び別添のとおり畜水産安全管理課長通知(4 消安第 1333 号)がありましたので、お知らせします。

ブリ類等に発症する  $\alpha$  溶血性レンサ球菌症については、令和 3 年に、従来の血清型別分類(I 型及び II 型)には明確に当てはまらない新たな型と思われる  $\alpha$  溶血性レンサ球菌の発生が報告されたため、農林水産省では関係府県の協力を得て、令和 3 年度における本菌株の発生状況等について調査を行いました。

本調査結果をとりまとめるとともに、令和 4 年度の発生状況等についての調査を行うこととし、都道府県に以下の通知を発出いたしました。

- ①新たな型と思われる  $\alpha$  溶血性レンサ球菌に関する令和 3 年度調査の結果報告及び令和 4 年度調査依頼について
- ②新たな型と思われる  $\alpha$  溶血性レンサ球菌に関する令和 3 年度調査結果（別紙 1）
- ③新たな型と思われる  $\alpha$  溶血性レンサ球菌に関する報告書（別紙 2）
- ④リーフレット「新たな型と思われるレンサ球菌が国内で発生しています！」（別紙 3）

4 消安第1333号  
令和4年6月9日

公益社団法人 日本動物用医薬品協会理事長 殿

農林水産省消費・安全局  
畜水産安全管理課長

新たな型と思われる $\alpha$ 溶血性レンサ球菌に関する令和3年度調査の結果報告  
及び令和4年度調査依頼について

このことについて、別添のとおり都道府県水産主務部長に通知したので御了知の上、  
貴管下会員に周知願います。

4 消 安 第 1333 号

令 和 4 年 6 月 9 日

都道府県 農林水産部長 殿

農林水産省消費・安全局  
畜水産安全管理課長

新たな型と思われる  $\alpha$  溶血性レンサ球菌に関する令和 3 年度調査の結果報告  
及び令和 4 年度調査依頼について

日頃から、水産防疫の推進に御協力いただき感謝申し上げます。

$\alpha$  溶血性レンサ球菌症については、令和 3 年に、従来の血清型別分類（I 型及び II 型）には明確に当たはまらない新たな型と思われる  $\alpha$  溶血性レンサ球菌の発生が報告されたため、関係府県の協力を得て、令和 3 年度における本菌株の発生状況等について調査を行いました。

この度、調査結果を別紙 1 のとおり取りまとめたので御報告いたします。令和 3 年度の本調査を通じて、本菌株がシマアジ、カンパチ及びイサキにおいて発生したこと並びに既承認ワクチンではカンパチにおいて効果が低い可能性があることに関する情報が寄せられています。また、ブリについては、症状等から本菌株の疑いがあるものの、菌株が保存されていなかったために検査による確定診断ができなかった症例がありました。本調査への御協力ありがとうございました。

本疾病への的確な対応のためには、本菌株に関する更なる情報収集が必要であることから、農林水産省では令和 4 年度の本菌株の発生状況や魚種ごとの被害の程度、ワクチンの効果等について調査を行うことといたしました。令和 4 年 11 月 15 日（火）までに検査により本菌株の感染が確定した場合、別紙 2 の報告書により、令和 4 年 12 月 1 日（木）までに水産安全室に情報提供いただきますようお願いいたします。

なお、検査については、宮崎大学魚類感染症学研究室又は水産技術研究所病理部から検査方法に関する情報の提供を受け、各都道府県において実施いただくようお願いいたします。そのような対応が困難な場合には、宮崎大学魚類感染症学研究室又は水産技術研究所病理部に御相談ください。

また、別紙 3 のとおり養殖業者に対する周知用のチラシを作成しました。本菌株の流行について注意喚起を行うとともに、本菌株が疑われる症例を速やかに水産試験場等に報告、相談するように御指導いただきますよう、併せてお願いいたします。

## 新たな型と思われる $\alpha$ 溶血性レンサ球菌に関する令和3年度調査結果

### 1. 背景及び目的

- ・ $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症については、令和3年秋頃から、従来の血清型別分類（I型及びII型）には明確に当てはまらない、新たな型と思われる菌株の発生に関する情報が、複数箇所から提供された。
- ・当該菌株は病原性が強く、現在承認されているレンサ球菌症用のワクチンでは十分な効果が得られない可能性が指摘されているが、全体として情報が不足している。
- ・このため、農林水産省は、当該菌株の令和4年度の流行への対策を講ずるため、令和3年度における発生状況等について調査を実施した。

### 2. 調査方法

- ・対象疾病：令和3年秋に報告を受けた、新たな型と思われる $\alpha$ 溶血性レンサ球菌を原因菌とする疾病。調査開始時点では診断方法が確立されていなかったため、発生した症例の特徴（①既承認ワクチン等による予防効果が低い、②抗血清凝集試験で凝集しにくい）が見られた症例を調査対象とした。
- ・対象魚種：ブリ類、シマアジ、クロマグロ、ヒラメ及びフグ類（水産防疫対策事業で実施した魚病被害状況調査において、2017年～2019年に $\alpha$ 溶血性レンサ球菌によるレンサ球菌症被害が確認された魚種のうち、令和元年漁業・養殖業生産統計において「その他の魚類」に分類された魚種を除いたもの）。
- ・対象地域：令和元年漁業・養殖業生産統計において上記対象魚種の生産実績がある20府県（以下「府県」を「県」という。）。
- ・方法：調査は2段階に分けて行った。  
1次調査は、調査対象県を絞り込むため、ワクチンの効果や試験結果の概要についての情報収集を目的として、調査対象県へアンケートへの回答を依頼した。  
追加調査は、1次調査の結果から当該菌株の発生が疑われる県又は当該菌株の発生が否定できなかった県に対して、発生場所や魚種等の詳細事項についての情報収集を目的として、アンケートへの回答を依頼した。

### 3. 調査項目及び結果

#### （1）1次調査

##### ア 調査項目

調査対象とした20県の魚病担当部局にアンケートを発出。令和3年4月1日から12月31日までの期間に、県内で「 $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症」と診断された病魚について、以下の事項に対する該当の有無を調査した。

（1）II型レンサ球菌症用ワクチンの複数回接種やアジュバント入りワクチン（ピシバック注50ml）の接種等、養殖場において十分な予防対策を講じていたにもかかわらず、他の水域や養殖場と比較してワクチンの効果が低かったもの

- (2) 抗血清凝集試験の結果が、I型・II型いずれの抗血清に対しても凝集しなかったもの又は他の $\alpha$ 溶血性レンサ球菌株での抗血清凝集試験の結果と比べて凝集の程度が判断しにくかったもの
- (3) 「 $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症」又は「I型 $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症」と判別したものの、抗血清凝集試験による血清型の判別を実施していなかったもの
- ※すべて〔あり、なし、現時点で不明〕の3択で回答を依頼した。

#### イ 調査結果

- ① 単純集計の結果は以下のとおり (n=20、単位：県)

	該当（あり）	非該当（なし）	現時点で不明
(1) ワクチンの効果が低かった	2	12	6
(2) 血清が凝集しにくかった	7	10	3
(3) 血清型が未判別	5	13	2

- ② (1)が「あり」であったのは2県、(2)が「あり」であったのは7県、(1)と(2)のいずれか又は両方の回答が「あり」であったのは8県であった。
- ③ ②に該当しなかった県のうち、(3)が「あり」又は(1)～(3)のいずれかが「現時点では不明」であったのは6県であった。
- ④ いずれの質問も「なし」であったのは6県であった。

#### (2) 追加調査

1次調査において、いずれの質問も「なし」であった6県を除く14県（当該菌株の発生が疑われた8県+発生が否定できなかった6県=14県）に対して、詳細事項を追加調査した。

#### ア 調査項目

場所（湾、水域等）、魚種、PCR検査及び抗血清凝集試験の結果、他の水域や養殖場と比較した被害状況（重症度、感染数、鎮静化から再感染までの期間）、現時点での残存菌株の有無、宮崎大学等への検査依頼の有無 等

#### イ 調査結果

- ① 当該菌株の発生が疑われたのは、8県12か所（22経営体）（表参照）であった。
- ② 当該菌株の発生が疑われた魚種は、シマアジが6県8か所（11経営体）と最も多く、次いでカンパチが1県3か所（9経営体）と多かった。ブリは2県3か所（3経営体）、クロマグロは1県1か所（2経営体）、イサキが1県1か所（1経営体）であった。
- ③ PCR検査を実施していたのは3県5か所（11経営体）であった。PCR検査を実施していない事例では、症状、菌分離や顕微鏡検査で診断されていた。
- ④ 当該菌株が水産試験場等で保存されているのは5県8か所（14経営体）であった。これらについて宮崎大学等にて検査を行ったところ、そのうち4県6か所（12経営体）において新たな型と思われる株が確認された（魚種はシマアジ、カンパチ、イサキ）。

表：調査で当該菌株の発生が疑われた魚種等

魚種	県数	箇所数	経営体数
シマアジ	6	8	11
カンパチ	1	3	9
ブリ	2	3	3
クロマグロ	1	1	2
イサキ	1	1	1

新たな型と思われる $\alpha$ 溶血性レンサ球菌に関する報告書

(別紙2)

基本情報		被害状況		ワクチンに関する情報		抗菌剤に関する情報		凝聚試験結果		検査機関	
本菌株は重症度が高いという情報が寄せられており、被害状況についての記載をお願いいたします。 本菌株は既承認ワクチンの効果が低い可能性があることに関する情報が寄せられており、ワクチンの効果等について記載をお願いいたします。											
都道府県	検査日	発生水域/ 所屬漁協	養殖業者名	種苗の導入元	魚種	投与の有無	被害量 (kg)	被害額 (千円)	製剤名	効果	持続期間
都道府県	検査日	発生水域/ 所属漁協	養殖業者名	種苗の導入元	魚種	投与の有無	被害量 (kg)	被害額 (千円)	使用抗菌剤	効果	抗菌剤投与後までの期間
●●県	2022.8.26	●●漁協	●●水産	カンパチ	●●水産	約6飼	500	1000	有	ビシバック主50ml	低い
											6~9か月
											①エリスロマイシン ②ドキソサクリン
											①効果が高い ②効果が低い
											①再発なし ②5日間
											(-)
											(-)
											●●水産試験場

※記入が困難な場合には空欄でも構いません。